

平成21年6月10日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2008  
課題番号：18530676  
研究課題名（和文） 音楽的技能の獲得における日常生活の音楽聴取行動と歌唱行動の特徴  
研究課題名（英文） The characteristic of daily singing behavior and listening behavior  
in the acquisition of musical skills

研究代表者 水戸博道（MITO HIROMICHI）  
宮城教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：60219681

## 研究成果の概要：

本研究の目的は、余暇活動として行われている日常生活の中の音楽活動が、現代の若者たちの音楽的技能の獲得にどのような役割をはたしているのかを実証的に明らかにすることである。そのために、音楽の聴取行動と歌唱行動が日常生活の中のどのような文脈の中で、どのような形態で、どのような目的で起こっているのかを調査した。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	390,000	2,590,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：音楽行動 聴取行動 歌唱行動 カラオケ 若者 現代社会

## 1. 研究開始当初の背景

現代社会では、若い世代の人々が、日常生活の中で相当量の時間を音楽活動に費やしていることが、さまざまな研究で報告されている。さらに、筆者が行った実験的研究では、こうした日常生活の中の音楽活動は、余暇活動として行われているにもかかわらず、音楽的技能の獲得に大きく関係してい

ることが実証されている。特に、特定の演奏技術を必要としない音楽の認知的技能については、音楽の特別な訓練をまったく受けていない者でも、日常生活で豊富な音楽活動を行っている場合、音楽の専門家を上回る能力を示す場合があることが明らかになった。

これらの研究は、日常生活の音楽活動の

量的側面を調べ、その量の多少が音楽の認知的技能のレベルと非常に高い相関関係にあることを明らかにした。しかし、これまでの研究では、系統的な訓練として行われることのない一種の余暇活動が、音楽の認知的技能の獲得にどのように機能しているのかについては、明らかにされていない。つまり、日常生活の音楽活動のどのような行動様式が技能獲得に寄与しているのかは、未だ不明確なのである。本研究は、現代の若者たちの音楽聴取行動と歌唱行動に焦点をあて、その行動様式の特徴を、音楽的技能の獲得という観点から調査する。

## 2. 研究の目的

本研究は、現代の若者の音楽行動に注目し、余暇活動として行われている日常生活の中の音楽活動が、音楽的技能の獲得にどのような役割をはたしているのかを実証的に明らかにした。そのために、音楽の聴取行動と歌唱行動が日常生活の中のどのような文脈の中で、どのような形態で、どのような目的で起こっているのかを調査した。音楽の聴取行動や歌唱行動が、(1) どこで (2) どのように (3) どのような目的で起こったのかを細密に調べ、行動様式のどのような特徴が音楽的技能の獲得に寄与しているのかを探った。

## 3. 研究の方法

本研究は、日常生活における音楽行動を、日誌報告によって明らかにした。当初、音楽の聴取行動は、携帯電話を用いた経験サンプリング法によって行う予定であったが、個人情報保護の問題で、調査対象者の電話番号を聴くことが難しくなったため、この方法は断念して、音楽聴取行動と歌唱行動の両方を日誌報告によって調査することとした。調査では、30人の大学生に土日を含む1週間にわたり、音楽の聴取行動と歌唱行動の記録を毎日記録してもらった。記録する項目は、以下

の5項目である。

### ① 音楽を聴いた/歌った時の状況

音楽行動が起きた時の場所や自分の行動を記録してもらった。たとえば、<通学途中に音楽を聴いた><自宅で寝る前に歌った>などである。

### ② 音楽を聴いた/歌った時の媒体

音楽行動が起こった時にどのような媒体(iPod、CD、TVなど)から音楽がながれていたのかを記録してもらった。

### ③ 聴いた/歌った音楽のジャンル

音楽行動が起こった時の音楽のジャンルを記録してもらった。

### ④ 聴いた/歌った理由

どうして音楽を聴いたり歌ったりしたのかについて、その理由を記録してもらった。たとえば、<ストレスの発散><歌がうまくなりたかったから>などである。

## 4. 研究成果

### (1) 音楽の聴取行動

音楽の聴取行動に関しては、各項目に関して以下のような結果が見られた。

#### ① 音楽を聴いた/歌った時の状況

音楽を聴く行動が起きた時の約70パーセント以上の状況で、音楽は、他の行動を伴って聴かれていることがわかった。たとえば、勉強をしながら聴いたり、家事をしながら聴いたりしていた。

#### ② 音楽を聴く媒体

音楽を聴く媒体は、100パーセントに近く、録音媒体であった。生演奏で音楽を聴くことは非常にまれであり、音楽CD、DVD、i-Podなどの音楽聴取媒体で聴かれることが多いことがわかった。

#### ③ 聴く音楽のジャンル

日常生活の中で聴かれる音楽のジャンルは、ほとんどJ-POPをはじめとするポピュラー音楽で、西洋クラシック音楽、ジャズ、民族音楽が聴かれることは、非常にまれであることがわかった。

#### ④ 音楽を聴く理由

ほとんどの場合、音楽は「ストレス発散」など、心理的な癒しを求めために聴かれていることがわかった。しかし、「歌を覚えるため」などといった積極的な理由も多く、最近のカラオケ文化の拡大を反映したような回答も多かった。

## (2) 歌唱行動

日常生活の歌唱行動に関しては、先行研究が非常に少ない。特に、実証的にその実態を調べたものは、本研究がはじめてである。歌唱行動の実態については、各項目ごとに詳しく述べていく。

### ① 音楽を聴いた/歌った時の状況

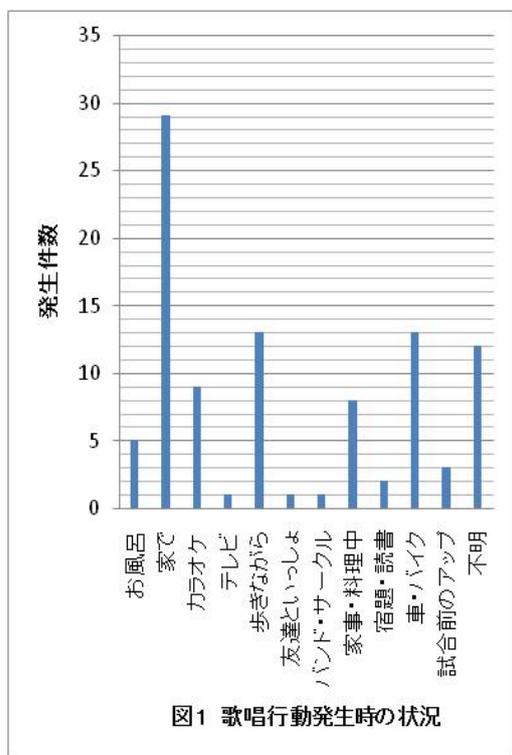


図1のグラフは、歌唱行動がどのような場所でどのような状況で起こっているのかを、その発生件数で示したものである。図に示されたように、歌唱行動は、日常生活のさまざまな場所で起きていることがわかった。自宅ではもちろんのこと、車、バイク、歩行などの移動中にも歌唱行動が起きていることがわかった。この他の歌唱行動の特徴としては、ほとんどの歌唱行動が、一人で起こっているということである。「カラオケ」や「友達と

いっしょ」以外の状況では、歌唱行動は、単独でおこなっていることが伺え、日常生活の中での歌唱行動は、複数の人々同士で歌われることが少ないことが伺えた。

### ② 音楽を聴いた/歌った時の媒体

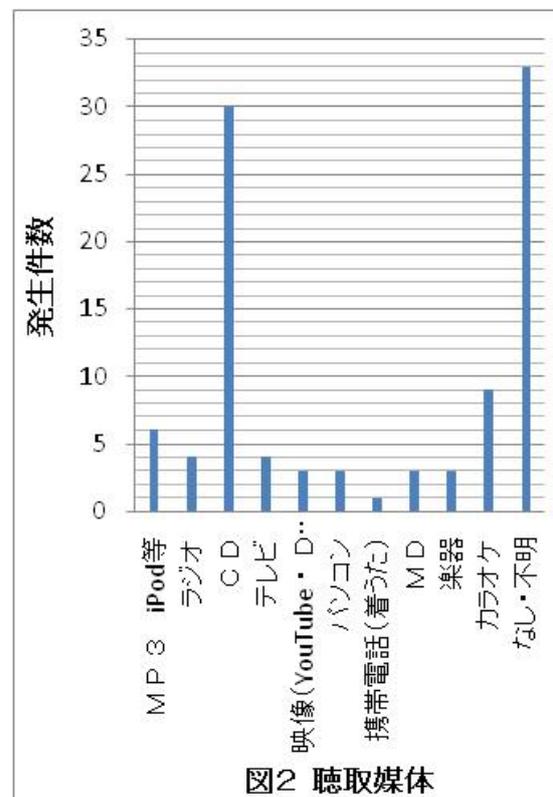
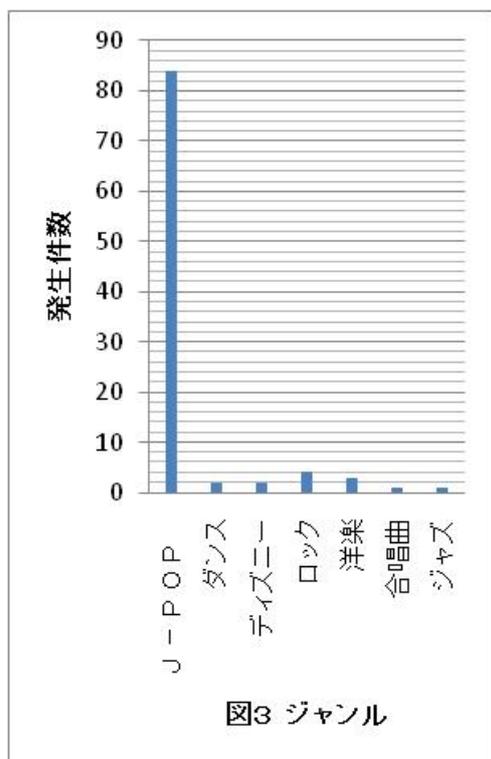


図2は歌唱行動が発生するときに、どのような媒体で音楽を聴いているかを示したものである。聴取行動と同じく、CD、i-Podなどの様々な録音再生媒体で音楽を聴いていることがわかった。この中で、一番多いのがCDであったが、現代社会では、さまざまな録音媒体で音楽を聴くことができることが、この結果からも見て取れた。しかし、歌唱行動は、音楽を聴きながら起こるとは限らず、「聴取媒体なし」とした回答も多く、歌唱行動は、歌唱単独で起こっていることも多いことがわかった。

### ③ 歌った音楽のジャンル

図3は、歌った音楽の発生件数を音楽のジャンル別に示したものである。歌った音楽は、圧倒的にJ-POPが多く、その他のジャンルの音楽は、ほとんど歌われていないことがわか

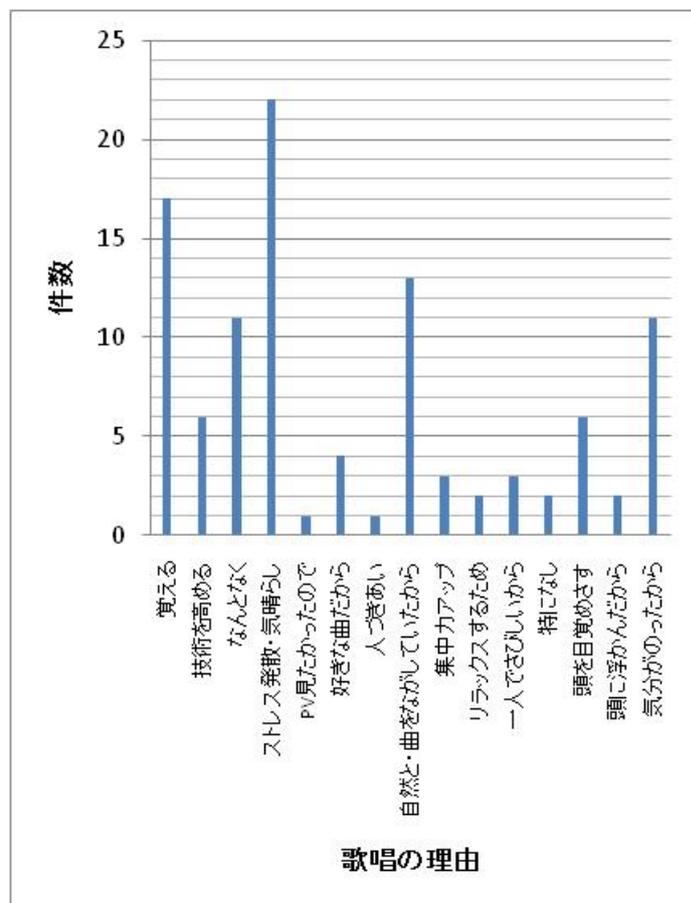
った。特筆すべき傾向は、学校の音楽科教育で歌われる歌が、ほとんど日常生活の中では、歌われることがないということである。歌唱共通教材に含まれている歌や、中学校の合唱コンクールで歌われるような曲は、ほとんど日常生活の中では歌われていなかった。



#### ④ 聴いた/歌った理由

最後に、日常生活で歌唱行動が起きる場合、どのような理由で歌を歌っているのかについてである。歌を歌う理由は実にさまざまであったが、「ストレス発散」や「リラックスする」などといった、心理的な癒しを求めるための理由と、「技術を高める」や「歌を覚える」などの積極的な理由の2つが多かった。この他、数は少ないものの興味深かった理由として、「集中力アップ」や「朝、目を覚ます」などの回答があり、現代の若者たちは、歌を歌うことでさまざまな心理的效果を得ようとしていることが見て取れた。また、「気分がのったから」「なんとなく」などといった、特別の理由が示されていない回答も多く、強い目的意識がなくとも、さまざまな場所で

歌唱行動が起こっていることもわかった。



#### (3) まとめ

聴取行動と歌唱行動の両方とも、日本の若者にとっては、重要な音楽行動であることがわかった。特に歌唱行動に関しては、日常生活のさまざまな状況で起こっていることがわかった。しかも、何となく声を出して歌うのではなく、歌を覚えたり、歌の技術を高めるために歌唱行動がおきていることがわかり、こうした明確な目的に基づく歌唱行動が音楽的技能の獲得にも寄与していることが伺えた。今回の回答者の数名には、その後インタビューによって歌唱行動の実態をさらに詳しく聴くことができたが、その中でも、歌唱行動におけるこのような積極的理由がしめされた。現代の若者たちにとって、カラオケで歌を披露しあうことは、とても重要なレジャーの一つであることは、いまさら言う

までのないことであるが、こうした活動に向けて、若者たちが日ごろの音楽行動の中で、新曲を覚えたり、歌の技術を高めるために歌を歌っていることが明らかにされたのである。

前述したが、音楽行動の調査においては、歌唱行動の実態を調べた者は、非常に少ない。今後、対象年齢をさらに広げた大規模な調査が必要とされる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 水戸博道 (2007) 「現代の若者と J-POP」  
『音楽教育ジャーナル』 第5巻第1号  
pp. 116-125

[学会発表] (計2件)

- ① 音楽的技能の獲得における日常生活の音楽活動の役割 水戸博道 日本音楽教育学会 2008年11月8日 国立音楽大学

- ② Learning musical skill through everyday musical activities. 水戸博道  
第10回音楽知覚認知国際会議 2008年8月26日 北海道大学

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

水戸博道 (MITO HIROMICHI)  
宮城教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：60219681

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし